

## 珠洲市蛸島町における仮設住宅環境支援プロジェクト（GAPPA noto）の実践

指導教員	金沢大学	講師	白石英巨				
参加学生	3年	柳尚弥	井上結愛	佐藤光琉	櫻井文乃	槇野桃花	
		渡邊真咲					

本活動の実施にあたりご支援をいただいた、珠洲市 復旧・復興本部の三上様ならびに企画財政課の森田様をはじめ、現地での我々の活動をあたたかく迎え入れてくださった地域の皆さま、そして現地での広報等にご協力いただいた蛸島公民館の増田様に感謝いたします。

GAPPA noto（北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト）は、北陸3県（石川・富山・福井）の8大学・高専が連携して2024年5月に発足した任意団体です。珠洲市・輪島市・七尾市・能登町・穴水町の5市町の7地区にある仮設住宅団地を対象に、ものづくり・ことづくりを通じた住環境改善のお手伝いを目的に、各大学でチームを編成して担当地区での活動を展開しています。

珠洲市蛸島町を担当する我々のチームは、金沢大学・金沢工業大学・金沢美術工芸大学の3大学で構成され、2024年12月に第1回ワークショップを開始してから2025年12月までに計6回のワークショップを実施しました。

今年度は本支援事業の助成もあり充実した活動が実施できました。来年度は、これまでの住民参加型のワークショップに加えて、住民の方々が企画段階から参画し、活躍の機会を提供できるような新たな活動も企画しております。

我々の活動はホームページでも公開しておりますので、右のQRコードから閲覧いただけると幸いです。



# 珠洲市蛸島町における仮設住宅環境支援プロジェクト (GAPPA noto) の実践

指導教員：白石英巨  
 参加学生：柳尚弥・井上結愛・佐藤光琉・櫻井文乃・榎野桃花・渡邊真咲  
 協力：珠洲市・金沢大学有志学生  
 金沢工業大学・金沢美術工芸大学



金沢大学 人間社会学域地域創造学類 地域居住研究室 (白石ゼミ)

## 目的 ものづくり・ことづくりを通じた生活環境改善の“お手伝い” 活動 仮設住宅団地住民を対象としたワークショップの実施

### 活動概要

GAPPA noto (北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト) に参画する金沢大学・金沢工業大学・金沢美術工芸大学の三大学の教員・学生が、ものづくり・ことづくりを通じた生活環境改善の“お手伝い”を目的に、蛸島町第二・三・四仮設住宅団地で計5回のワークショップを実施した。

### 5月17日 収納アイデア・学生提案集



### 活動成果

**生活環境改善**：仮設住宅の狭小空間の課題解決と外観に個性を表現するものづくり、集まれる場所づくり、年中行事の「節目」感覚を提供するものづくりを実施した。  
**交流促進**：住民同士の交流、住民と学生の交流、学生同士の交流を三本柱に、住民112名・学生55名の参加を得た。

### 11月15日 蛸ジオラマ



### 7月27日 表札づくり



### 12月7日 しめ縄づくり



### 10月4日 表札+集まる場所づくり



### 今後の活動計画

**生活環境改善**：夏季・冬季の生活環境の課題解決への取り組みを実施する。夏季にはNPOとの協力を通じた緑のカーテン設置、冬季には室外機などの雪対策に関して本活動で実施可能な対策を検討・実施する。  
**交流促進**：今年度と同様に、住民の要望を考慮した学生企画を継続する。また、企画段階から住民が参画し生活の復興や交流促進に資する活動を展開する。かまどベンチなど集まれる場所づくり活動の資産を活かした活動を展開する。



## 1. 活動の要約

今年度は合計5回のワークショップと3回の地域活動を実施し、合計で112名の地域住民の参加を得た。まな板づくり、表札づくり、収納づくり、集まれる場所づくり、しめ縄づくりなどの「ものづくり」では、参加者と学生が共に手を動かす行為を通じた心の触れ合いと、生活に役立ち彩りを添える活動を実施した。「ことづくり」では、生活の困りごと相談、学生提案投票、写真展・模型展や懇親会など、地域課題や住民の想いの理解と記録を通じた相互理解と、今後の活動への橋渡しを行った。来年度は、これまでの学生提案に加えて、地域住民が企画段階から携わることで、地域交流の活性化や地域主体の活躍の場づくりのお手伝い活動を展開することを計画している。

## 2. 活動の目的

本活動は、GAPPA noto（北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト）に参画する金沢大学・金沢工業大学・金沢美術工芸大学の3大学の教員・学生が、ものづくり・ことづくりを通じた生活環境改善のお手伝いを目的に、珠洲市の協力を得て蛸島町第2・3・4仮設住宅団地（151戸）で活動を実施するものである。

## 3. 活動の内容

2024年5月の団体発足時から2025年12月までの活動概要を表1に示す。昨年度の第1回ワークショップから数えて172名（今年度112名）の地域住民の方および学生総勢55名（各ワークショップの参加者合計で128名）の参加を得た。学生の繁忙期となる年末から年度末の期間を除き数カ月に1度の活動頻度を想定したが、今年度は計5回と高い頻度での活動が実施できた。初動期は相談会や学生提案に対する意見聴取など住環境の理解に加えて、収納し易いまな板や段ボールを使った収納提案など生活に直結したものづくりを、中盤では表札づくりやかまどベンチの設置など住まいの周辺に関するもの・ことづくりを、後半ではしめ縄づくりなど年中行事に関するものづくりを展開した。また、写真展やジオラマワークショップなど、地域の課題や記憶を記録する活動も並行して実施した。

本活動はGAPPA noto以外の団体との共同活動も想定し、今年度は音楽家によるコンサートも実施した。活動開始当初は教員が先導してワークショップを企画していたが、各大学の学生による定期的な打合せを通じて徐々に学生主体の企画案に移行することができた。

表1 2024年5月から2025年12月までの活動記録

年月日	内容
2024年6月21日（金）	・ 仮設住宅団地の視察
2024年9月28日（土）	・ 仮設住宅団地および蛸島町の視察（令和6年9月 能登半島豪雨の影響を受け当初予定の第1回ワークショップを延期）
2024年12月15日（日）	・ 第1回ワークショップ：がっぱカフェ、写真展、キッチンカー、まなピタ作製 ・ 参加者：住民60名+学生24名
2025年5月17日（土）	・ 第2回ワークショップ：がっぱカフェ、収納アイデア相談会、学生活動アイデア集、写真展、音楽コンサート ・ 参加者：住民51名+学生32名
2025年7月12日（土）	・ 段ボール収納（段ボックス）引き渡し
2025年7月27日（日）	・ 第3回ワークショップ：表札づくり ・ 参加者：住民11名+学生7名
2025年9月10日（水） 2025年9月11日（木）	・ 蛸島キリコ祭り参加
2025年9月25日（水）	・ かまどベンチの設営
2025年10月4日（土）	・ 第4回ワークショップ：表札づくり、集まれる場所づくり ・ 参加者：住民11名+学生29名
2025年11月15日（土）	・ 第5回ワークショップ：蛸ジオラマ ・ 参加者：住民17名+学生13名
2025年12月7日（日）	・ 第6回ワークショップ：しめ縄づくり・冬の困りごと相談会 ・ 参加者：22名+学生23名

#### 4. 活動の成果

本活動の成果と課題を以下に記す。

生活環境改善：主に①日常生活、②景観、③コミュニティ、④年中行事に関連するものづくりを展開した。①は調理器具や収納といった仮設住宅の狭小空間という課題の解決に向けたものづくり、②は表札づくりによる仮設住宅団地の外観の変化と個性化による愛着づくり、③はかまどベンチの設置による集まれる場所づくり、④はしめ縄の設置による年中行事の「節目」の回復に対応する。夏季の暑さ対策（緑のカーテン設置など）、冬季の寒さ対策（室外機の凍結など）は来年度の課題となった。

交流促進：人の交流は①住民同士の交流、②住民と学生の交流、③学生同士の交流の3つの側面がある。①はワークショップ開催により定期的に住民同士が交流する機会を提供できた。②はワークショップを重ねる度に学生と住民との交流が深まり、お互いに名前を覚えるなど心理的な近接が生まれた。③は異なる知識や経験を持つ学生同士の交流が生まれ互いに刺激を受け合う関係が構築されつつある。また、これらの交流が促進されることで住民発案の活動が萌芽するなど、新たな活動展開が期待される。他方で、家族世帯や男性参加者が少ないこと、新規参加者の広がりやが限定的であることが課題となった。

#### 5. 今後の活動計画

仮設住宅への入居期間の延長が見込まれるなか、来年度も継続的な活動が望まれる。今年度の現地での活動は12月に実施した第6回ワークショップで終了するが、来年度に向けて定期的な学生・教員打合せを実施する。本活動は地域住民の意見を聞きながら実施するため確定ではないが、現時点での検討事項を以下に記す。

生活環境改善：夏季・冬季の生活環境の課題解決への取り組みを実施する。夏季にはNPOとの協力を通じた緑のカーテン設置、冬季には室外機などの雪対策に関して、本活動で実施可能な対策を検討・実施する。

交流促進：今年度と同様に、住民の要望を考慮した学生企画を継続する。また、本年度の活動を通じて、地域住民からの活動提案を受けており、企画段階から住民が参画し生活の復興や交流促進に資する活動を展開する。かまどベンチなど集まれる場所づくり活動の資産を活かした活動を展開する。

#### 6. 活動に対する地域からの評価

これまで6回に渡りワークショップを開催いただき誠にありがとうございます。本活動において住民から「今後の活動を一緒に考えたい」という声があることが、良い支援となった成果であると感じています。また一過性のイベントで終わらず、継続して活動を行い、合計55名の大学生が活動に参加し、本市と関わりをもったこと（関係人口の増加）も大きな成果です。今後も継続した活動を期待するとともに、大学生の学びに繋がることを願っております。